

### 代表者会議

**[活動報告]「農業農村を応援する大学生サークルネット」代表者会議を開催しました。**  
一般財団法人日本グラウンドワーク協会

東京都内で「農業農村を応援する大学生サークル代表者会議」を開催しました。会議は農林水産省の後援をいただきました。会議の目的は、各サークル間の活動情報交換や意見交換及び交流の推進で、北は青森県、南は沖縄県など全国各地から下記13大学のサークルが参加しました。

- ①琉球大学おきなわ食・農研究会、②静岡大学棚田研究会、③信州大学むらづくり応援隊、④千葉大学援農お宝は発掘隊、⑤東京大学東大むら塾、⑥明治大学楽農4Hクラブ、⑦名城大学地域共創隊WITH、⑧北里大学北里農援隊、⑨神戸大学地域おこしサークル水芭蕉、⑩新潟大学新大むらづくり応援隊、⑪石川県立大学能登学生応援隊、⑫山口大学棚田・地域おこし学生応援隊、⑬島根大学地域創生・結しまね

また、農村地域においては、若者の関係人口の増加が重要という観点から農林水産省農村計画課も参加しました。意見交換では、①部員を積極的に活動に参加させる方法、②新入部員の確保方をテーマに意見交換を行いました。各大学とも今回の意見交換を踏まえて、新入部員の確保に積極的に取り組むことになりました。また、活動に参加しない、いわゆる幽霊部員の解消にも取り組んで行くことになりました。活動情報交換では、各サークルから活動状況について発表が行われました。農業の応援、棚田保全活動の応援、農村地域の機能保全の応援、自ら農作物づくり、農業農村体験イベントの開催など様々な活動が紹介されました。

また、農村地域への移動経費の負担の在り方や農村地域の住民とのかかわり方等各サークルの活動に当たっての課題についても情報交換が行われました。また、「食料・農業・農村政策について」というテーマで元農林水産省職員の進藤金日子参議員による、学生目線に立ったわかりやすい講演も行われました。

夜の部の交流会では、2時間飲み放題のお酒も手伝って、サークルの代表者としてのサークル運営の悩み事や新たな活動の取組、学生生活、就職活動などの話題で盛り上がりました。アドレス交換をする等代表者間の親密度も増しました。今後、各大学サークル協働による農業農村の応援や交流を積極的に進めることで一致しました。なお、本年2月には、沖縄県糸満市において各大学協働によりサトウキビ刈りの応援と交流会を行いました。



### 「旅を住処とする大学生、『47都道府県庁』を巡った果てに」

島根大学 生物資源科学部 4年 川原田 希

『月日は百代の過客にして〜』という名文句を冒頭にいただき、松尾芭蕉の「奥の細道」は、私の愛する郷里、宮城県と東北地方に多くの名句を残した紀行文です。奥の細道は、芭蕉の死後8年を経て、ようやく出版されるわけですが、この一大紀行文が、出版からわずかに300年後、宮城県に住むのとある1人の少年の好奇心を形作っていくのです。「日々旅にして、旅を\*栖(すみか)とす」という1文に込められた言葉の意味を曲解した私は、やがて旅に出ることになりました。

私の故郷、宮城県大衡村(おおひらむら)は、トヨタ自動車東日本の本社工場を構える全国有数の「車の町」なわけですが、交通インフラと若者に乏しい寒村でありました。中学生になると、大衡村を飛び出して、私は新たな学び舎に友人を求めました。そこで出会った1人の城オタクと、2人の鉄道オタクは、一介のダムオタクに過ぎなかった私の人生に大きな影響を与えました。

コロナ禍の高校時代を終えた大学1年生の夏、初めてのバイト代で手にした「青春18きっぷ」をどのようにして使おうか。初めに思い浮かんだのは、山梨県。小学生時代、祖父母とともに甲府盆地を見下ろした中央本線の車窓をもう一度見たいという気持ちから、初めての1人旅先が決まりました。

もし、皆さんにもご縁があれば、甲斐大和駅から勝沼ぶどう郷駅の1駅区間、甲府盆地のため息が出るほどに美しい景色を体験してほしいものです。ですが、この旅のクライマックスは、甲府駅を降りてからにありました。甲府城の足場の悪い天守台跡から、ひときわ大きくそびえる公共建築。外壁は、薄い赤茶のレンガ模様で、甲府盆地の中心で天に届かんばかりのタワー。これまで、ダムと城跡ばかりを追っていた私にとってひときわ大きく見えました。今思えば、単純な思い過ごしだったのかもわかりません。ですが、この時の私は、全国47都道府県庁を巡ることで見えてくる世界があるのかもしれない、ふとそのように思いました。この経験から先、大学3年生の12月まで、全国47都道府県庁を巡るという口実の下、私のバイト代はそのほとんどが旅行に消えたわけです。

2025年12月25日、最後の1つである沖縄県庁を写真に収めることで、私の旅は1つの区切りを迎えました。結局、47もの都道府県庁を巡ったところで、目に見える変化があったわけではなかったわけですが、お金と時間に見合う、もしくはそれ以上の出会いと経験を得ることになりました。

いま、何かのご縁が紡がれて、「島根大学地域創生・結しまね」の代表をしています。これも、宮城県から島根県へと少し長めの1人旅に来ているようなものなのかもしれません。人生、旅をするに早すぎるということも遅すぎるということもないのです。芭蕉も、自らの終焉が差し迫った40代で、奥の細道紀行をはじめました。もしかすると、こうして歩んでいる日々そのものが、長い旅路の過程なのかもしれません。これからも旅を住処として、風土や文化を肌で感じる、出会いがあればそれに従う、そんな人生を歩みたいものです。

\*栖(すみか)…住処とほぼ同義。鳥の巣などの意で用いられる非常用漢字。

# 行こうよ！水土里の旅！



【廻堰大溜池(青森県 鶴田町)】ツルのまち鶴田

ただの湖に見えますが  
実は“ため池”なんだ  
全部、人の手で造った  
県内最大の人造池！



廻堰大溜池に映る津軽富士

貯められる水、  
ケチがい！

「津軽富士」と呼ばれる県内一高い岩木山に降った雨や雪が、津軽平野の水源になります

約1,100万 $m^3$ (東京ドーム9杯分)の水を貯めることができる県内最大のため池で、雨が多い時は洪水を防ぎ、少ない時は水不足から暮らしを守ります

廻堰大溜池に貯めた水は、西津軽の約8,300haの水田と畑に送られ、地域の農業と食を支えています

350年の  
歴史ある  
ため池



津軽平野の農地を潤す用水



日本一！  
約4kmの長い主手

人の手で土と石を積み上げて造られ、どこまで続くの？と思うほど長く、歩くとそのすごさを体感できます

江戸時代に造られ、決壊しても直しながら、350年にもわたり、今も使われ続けています



日本最長の木橋「鶴の舞橋」

大女優吉永小百合さんのCM「大人の休日倶楽部(JR東日本)」と同じ風景を撮影してみませんか《令和8年4月に大改修完了》

青森県は、りんごの生産量日本一



「巨大アップルパイ世界に挑戦する会」で直径3mのアップルパイ作っちゃいました

# 多良間島の見えない水「淡水レンズ」を守り、活かす技術

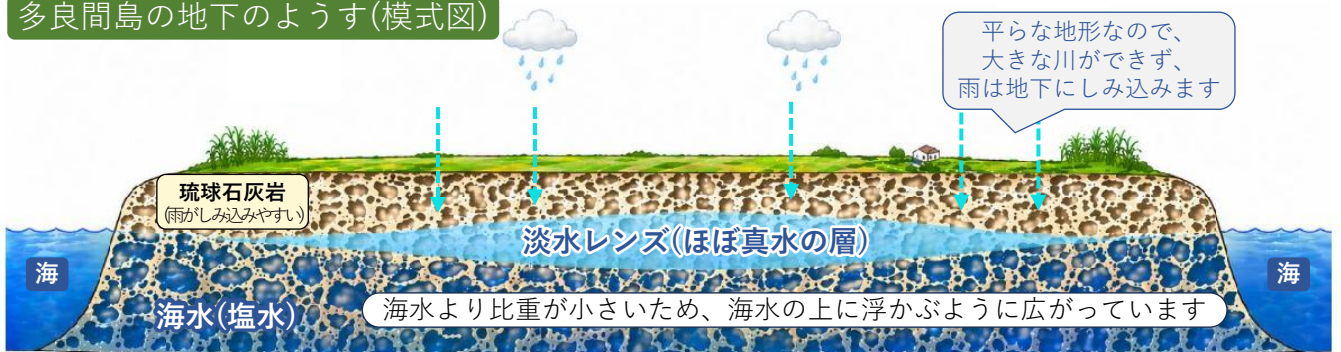
～地下に広がる水が、島の暮らしと農業を支える～

## 雨が降るのに、水が足りない？

- ① 多良間島では、台風などで雨は降ります。しかし、雨は降る時期に偏りがあり、大きな川やダムもないため水を溜めにくい島なんです。
- ② 降った雨の多くは、地下へとしみ込んでいきます。
- ③ 実はその地下に、海水の上に浮かぶように広がる「淡水レンズ」と呼ばれる“ほぼ真水の層”があります。



## 多良間島の地下のようす(模式図)



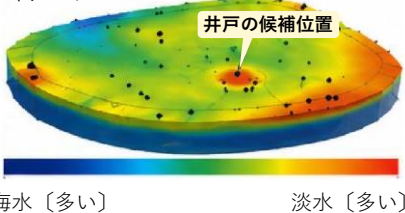
## 淡水レンズを守り、活かす技術を3つ紹介 /

### 1 探る(解析)

見えない地下水を予測する

- 三次元解析モデルを使って、地下水の動きを解析・予測
- 淡水と海水が混ざらないように取水できる井戸の位置を決定

イメージ



### 2 守る(ルール)

塩害を防ぐルールを決める

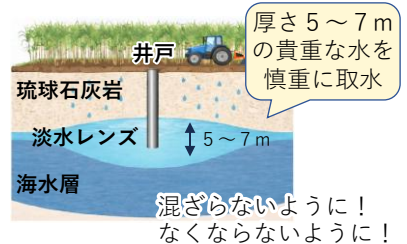
- サトウキビへの塩害を回避する水質基準を決定
- みんなで守る塩分濃度(EC値)の上限を200mS/mに設定



### 3 つなぐ(持続利用)

限られた水を使い続ける

- 地下水を30年間取水し続けると仮定した「地下水シミュレーション」で、淡水レンズの厚さの変動を解析し、取水量を12万m<sup>3</sup>/年に設定



## 守った水が、作物を育て島の未来を支える

- 💧 淡水レンズを守る
- 🌱 作物がおいしく大きく育つ
- 🏡 島の暮らしと文化をつなぐ



水を使う

大きく育つ

地域を支える

画像：多良間村ホームページ  
世界農業遺産・日本農業遺産認定地域紹介

【情報提供】 NTC NTCコンサルタンツ株式会社

## サークル活動紹介

### 「信州大学 村づくり応援隊 サークル活動紹介」

村づくり応援隊は信州大学農学部が所属するサークルです。私たちは、南箕輪村で地域の方々と関わりながら、農業活動を行うことで地域を活性化させることを目的として活動しています。通常活動では、キャンパス近くで畑作業を行っています。また、昨年は通常活動以外の活動として農学部の学祭である落葉松祭の中で中学生以下の子どもを対象とした芋ほり体験会を行いました。

#### 畑管理

地域の方から農地をお借りし、年間を通して管理を行っています。毎年様々な野菜を育てています。



#### まっくん田んぼボランティア

南箕輪村が農業体験をしたい子ども向けに行っているイベントで、田植えから食べるまでの過程を体験することができます。私たちは作業の補助をしたり、子どもたちとレクリエーションを行ったりしています。さらに、昨年からは田んぼでの運動会「べとリンピック」の運営にも携わっています。



### 農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。  
<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里  
Tel:03-6459-0324 Mail:[nakazato@groundwork.or.jp](mailto:nakazato@groundwork.or.jp)

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。